# 東欧改革に伴うオーストリア人の旅行パターンの変化

呉　羽　正　昭*

## 1．はじめに

### 1）研究目的

社会主義政権のもとにあった旧東ヨーロッパ諸国は，1980年代後半にいわゆる「東欧改革」を経験した。それとともに国境開放がなされ，観光行動に関する基盤は激変した。この結果中央ヨーロッパにおける観光の地域的パターンは大きく変化してきたと考えられる。こうした変化について筆者は，様々な点から論じてきた。その中で，当該地域におけるかつての西側諸国からの観光客の急激な増加，および中央ヨーロッパ東部地域の住民による観光旅行パターンの変化といった大きく2つの重要な問題が存在することを強調した（呉羽 1997a）。

後者の問題点については，旧東欧地域住民の旅行目的地としてオーストリアをとりあげ，彼らの滞在パターンの特徴を明らかにした（呉羽 1997b）。さらにその際，日帰り観光の重要性の急激な増加，都市観光の卓越およびオーストリア西部のアルプス地域における登山やスキー観光の増加を指摘した（呉羽 1997c）。また前者については，ハンガリーとチェコを例に観光客の変化とその地域的分布の特徴について，とくに両国の首都への観光客の集中がみられる特徴を明らかにした（呉羽 1998；1999）。しかしそこでは，流入国側の中央ヨーロッパ東部地域における旧西側諸国からの観光客の増加を明らかにしたに過ぎない。すなわち，もう一つの視点として，需要サイドの旧西側諸国における観光行動の変化およびその特徴について分析することも必要であると考えられる。

本研究では，上記の問題を研究課題としたい。すなわち，旧西側諸国からオーストリアを取り上げ，東欧改革に伴うオーストリア人の旅行行動の変化を明らかにすることを研究目的とする。また1990年代のオーストリア人による当該地域への旅行行動の特徴も明らかにする。

### 2）資料

本研究ではオーストリア統計局が発行した2種類の統計データを利用した。第1は「オーストリア人の旅行習慣 Reisegewohnheiten der Österreicher」であり，第2は「オーストリア人の日帰り観光と保養滞在 Tagesausflüge und Kuraufenthalt der Österreicher」である。

「オーストリア人の旅行習慣」の調査は，1969年以降3年おきにミクロセンサス Mikrozensus [1] として行われてきた。最新のものは1996年版である（Österreichisches Statitisches Zentralamt 1998a）。それは1995年11月から1996年10月にまでに行われた旅行について調査がなされており（以後，単に1996年とする），分析で用いる1990年版については，1989年11月から1990年10までが対象期間である（以後，1990年とする）。調査対象者はオーストリアに居住する住民であり，なかには5％程度の外国人も含まれている。ただし，本研究では，全てオーストリア人と呼ぶことにする。1996年になされた調査の際の調査票によると，まず年齢，住所，職業および最高学歴などの回答者個人の属性について，第2に旅行の有無と回数について項目が設けられている。第3に，主要な4つまでの旅行について，それぞれその期間，時期，目的，目的地，交通手段および費用などについて調査がなされている。この調査結果では，旅行は4泊以上の「休暇旅行 Haupturlaubsreisen」と，1泊から3泊までの「短期旅行 Kurzurlaubsreisen」に分けられている。それぞれの旅行について，上記の旅行に関するさまざまな指標の集計結果が公表されている。

一方「オーストリア人の日帰り観光と保養滞在」の調査は，かつて類似した調査が不定期でなされた経緯があるものの，1993年9月から1994年8月にかけての

*愛媛大学法文学部

期間内の日帰り観光と保養滞在を対象として初めて本格的に行われた（Österreichisches Statitisches Zentralamt 1998b)。ここでいう日帰り観光とは，住居以外で6時間以上連続した日帰り旅行のことを指す。調査対象者はオーストリアに居住する15歳以上の住民である。調査内容は，前述の「オーストリア人の旅行習慣」と同様に行動者の属性およびそれぞれの活動の有無・頻度などを含んでいる。これに加えて，調査期間内の最後に行った日帰り観光について，その時期，目的および目的地などが調査されている。

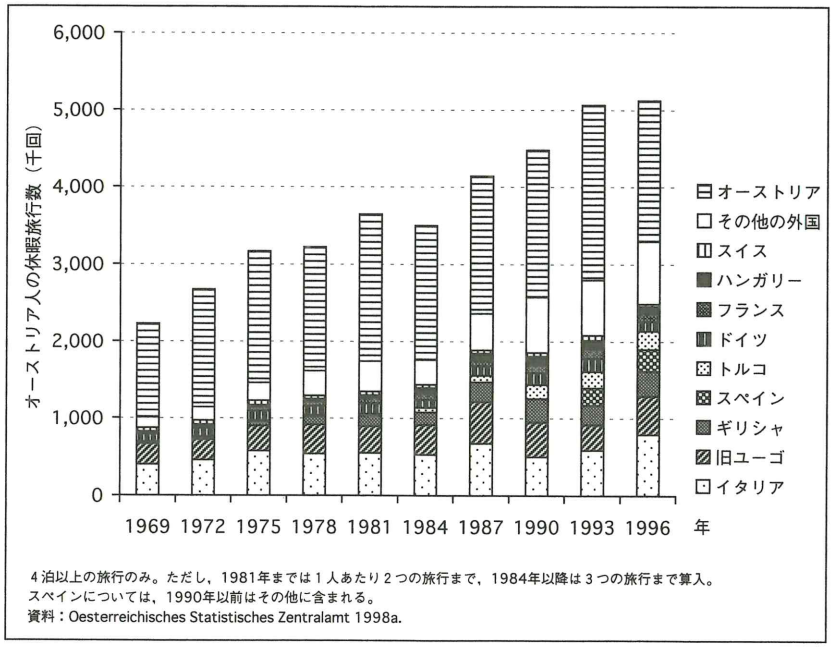
### 3）研究方法

本研究の目的は，東欧改革に伴うオーストリア人の旅行行動の変化を明らかにすることであるが，その際，旅行先としての中央ヨーロッパ東部地域の位置づけ，および中央ヨーロッパ東部地域を目的地とした旅行の性格，さらに両者の変化に注目する。しかし，上記資料の関係から，さらにはその収集状況の関係から分析方法を限定せざるを得ない。可能であれば，東欧改革以後の状況についてそれぞれ考察することが最良であろう。しかし，筆者が入手した資料の制約により，改革前後における変化の分析は不可能である。ただし，旅行目的地の変化のみについては資料が存在する。したがって，分析の中心は1990年代に入ってからの特徴を明らかにすることにせざるを得ない。

統計資料データの制約から旅行のタイプは，その期間に応じて3つに分類できる。すなわち，4泊以上の休暇旅行，1泊から3泊の短期旅行および日帰り観光である。この旅行タイプごとに分析を進めていく。

第1の分析は，休暇旅行の目的地の推移についてである。これによって東欧改革前後の休暇旅行の変化をみていく。

第2の分析は，1990年代のオーストリア人による中央ヨーロッパ東部地域への旅行の特徴についてである。休暇旅行と短期旅行については1990年と1996年の2カ年について分析を行う。この分析は資料の性格から2つに分類できる。1つは旅行の特徴であり，2つ目はその旅行者の性格である。すなわち，前者については旅行の時期，目的および費用などがあり，後者については，旅行者の居住地，年齢および就業形態などが該当する。これらの指標は，2カ年の統計書の中で目的国別に集計されたものを選択した。この際，中央ヨーロッパ東部地域以外を目的地とした旅行・旅行者との差異も検討することによって，当該地域への旅行・旅行者の特徴を明らかにしていく。ただし，休暇旅行については比較的多くのデータが存在するのに対して，短期旅行については得られる指標が少ない。その結果，休暇旅行についての分析を中心とした。日帰り観光に




第1図　オーストリア人による休暇旅行数の目的地別推移（1969～1996年）

ついては，目的地別に集計された指標が少ない。したがって，目的地と訪問目的を中心に分析を進める。

## 2．休暇旅行の目的地の推移

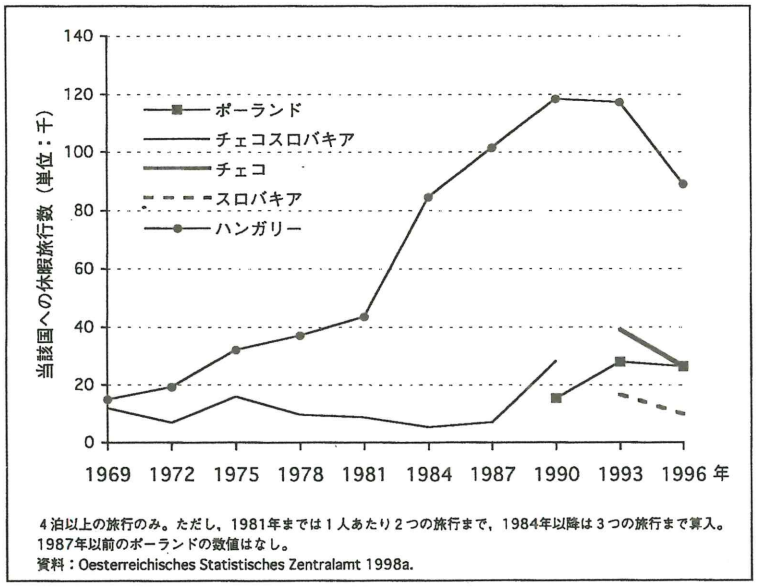
第1図は，オーストリア人の休暇旅行数の推移をその目的地別にみたものである。ただし，4泊以上の休暇旅行のみで，また1981年までは旅行者1人あたり2つまでの旅行のみが数値化されているのに対し，1984年以降は旅行者1人あたり3つまでの旅行が算入されている。旅行数全体としては増加傾向を示している。これは少なくとも1回の休暇旅行をした旅行者自体の数が増えつつあることと，複数回の休暇旅行を行う旅行者の数もまた増加傾向にあることによる。

目的地を国内・国外別にみると，1980年代半ば頃までは両者とも同程度であったが，それ以降は国内旅行がそれほど変化していないのに対し，外国旅行の数は増加を続けている。1996年に国内旅行数は183万であったが，国外へのそれは330万に達し，全体の64%を占めていた。外国旅行の目的国に注目すると，1970年代前半までは，イタリア，旧ユーゴスラビアおよびドイツといった近隣諸国で大半を占めていた。しかし，その後は目的地が多様化してきており，ギリシャ，トルコ，また最近ではスペインに旅行する場合が増えている。

さて本研究のテーマである中央ヨーロッパ東部地域への休暇旅行であるが，第1図に示したハンガリーでさえ，外国への休暇旅行数全体の2.7%に過ぎない(1996年)。これにチェコ，スロバキアおよびポーランドを加えても5%に満たない。これらの国々への休暇旅行の推移を示したものが第2図である。ハンガリーへの休暇旅行は比較的多い。すなわち，1979年にオーストリアとハンガリーとの査証義務が廃止されたことによって（呉羽 1997b），1980年代に急増傾向を示した。しかし，チェコスロバキアについてみると，1975年をピークとしてその後は減少傾向を示していた。

次に1989年になされた一連の東欧改革以降の状況について記述する。国ごとの差異もあるものの，改革直後に増加し，しかしその後に減少するといった傾向を有している。ハンガリーの場合には，1990年をピークに減少に転じている（第2図)。とくに1993年から1996年にかけての減少が著しい。チェコおよびスロバキアへの休暇旅行は，1990年，そして1993年へと急増した。その半分以上は3分の2はチェコへの旅行である。しかし，この2国への休暇旅行も1996年になるとともに減少した。ただし，改革以前の状況に比べると，ぞれよりは多いことが明らかである。一方ポーランドについては，統計に1990年代のデータが存在しない。しかし，チェコおよびスロバキアの場合と同様に，1990年から1993年にかけて増加し，その後は減少している。

以上のように，東欧改革によってオーストリア人による中央ヨーロッパ東部地域への休暇旅行は著しく増




第2図　オーストリア人による中央ヨーロッパ東部地域への休暇旅行の推移（1969～1996年）

加したわけではない。ハンガリーの場合には，同国の移動の自由化政策によって，すでに1980年代からオーストリア人の休暇旅行は急激に増加しつつあった。しかし，チェコ，スロバキアおよびポーランドへの休暇旅行も消滅したわけではない。以下では，それらの休暇旅行の特徴を明らかにしていく。

## 3．1990年代の旅行パターンの特徴

### 1）休暇旅行の特徴

#### (a) 概要

第1表は，1990年と1996年の2カ年の休暇旅行について，その目的国別の実数および旅行者あたりの滞在日数をまとめたものである。1990年では，旅行者1人当たり3つの旅行までが集計されているが，休暇旅行の総数は448万に達する。さらに1996年になると，旅行者あたり7つの休暇旅行が算入されているものの，総数は589万に増加した。その目的地に注目すると，前述したように，チェコ，スロバキア，ハンガリーおよびポーランドへの休暇旅行数は，イタリア，ギリシャ，スペインおよび1990年の旧ユーゴスラビアに比べてかなり少ない。滞在日数に注目すると，全体の平均は約12日である。これも目的地ごとに差異が存在し，オーストリアおよびその近隣諸国では，11日前後と若干短くなる傾向にある。逆に，ポーランド，ギリシャおよびスペインといったやや遠隔の国々への旅行は，休暇旅行全体の平均よりも長くなる。

#### (b) 旅行の時期

第2表は1996年における目的地別休暇旅行数を月別にまとめたものである。全体として夏季に集中しており，6月から9月の4カ月で全体の6割以上を占めている。目的地別にみても同様の特徴を有している。イタリア，ギリシャ，旧ユーゴスラビアといった海岸を有する国々でその傾向がとくに強く表れている。さらに，中央ヨーロッパ東部諸国でも同様である。こうした夏季への集中傾向は，1990年のそれと比べて，わずかながら弱まってきた。すなわち，冬季へ，さらには

第1表　オーストリア人による休暇旅行の目的地別概要（1990・1996年）

| | 年 | チェコ | スロバキア | ハンガリー | ポーランド | ユーゴスラビアc) | イタリア | ギリシャ | スペインd) | 外国計 | オーストリア | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 旅行総数a)（単位：1000） | 1990 | | 27.4 | 118.7 | 15.6 | 448.2 | 498.7 | 306.6 | 210.5 | 2,571.9 | 1,907.1 | 4,479.0 |
| | 1996 | 29.5 | 10.8 | 97.5 | 31.0 | 40.6 | 889.0 | 360.7 | 325.6 | 3,712.5 | 2,176.1 | 5,888.6 |
| 旅行あたりの滞在日数b) | 1990 | | 10.0 | 9.7 | 11.3 | 12.7 | 10.7 | 15.9 | 14.2 | 13.3 | 10.8 | 12.3 |
| | 1996 | 11.5 | 11.6 | 10.2 | 13.7 | 10.3 | 10.4 | 14.1 | 12.8 | 13.3 | 10.9 | 12.4 |

a）1990年は旅行者1人あたり3つの旅行のみ集計。1996年は7つの旅行まで集計。
b）親戚・知人訪問および自己所有別荘滞在は除く。
c）1996年はスロベニアの数値。
d）1990年はポルトガルを含む。
資料：Österreichisches Statistisches Zentralamt 1992；1998a

第2表　オーストリア人による目的地別休暇旅行の月別割合（1996年）

| 月 | チェコ | スロバキア | ハンガリー | ポーランド | スロベニア | イタリア | ギリシャ | スペイン | 外国計 | オーストリア | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1995年11月 | 4.4 | 2.7 | 4.5 | 0.3 | 5.0 | 1.2 | 0.4 | 6.1 | 3.3 | 1.4 | 2.6 |
| 12 | 0.7 | 2.7 | 1.6 | 7.4 | 3.7 | 0.5 | 0.2 | 3.4 | 2.5 | 3.8 | 3.0 |
| 1996年1月 | 0.0 | 0.0 | 0.7 | 3.5 | 0.7 | 0.9 | 0.1 | 3.3 | 2.2 | 5.0 | 3.2 |
| 2 | 0.0 | 4.5 | 4.1 | 2.6 | 4.0 | 2.0 | 0.2 | 7.9 | 3.4 | 15.3 | 7.8 |
| 3 | 3.0 | 2.7 | 1.4 | 0.0 | 5.9 | 2.2 | 0.4 | 5.2 | 3.0 | 7.1 | 4.5 |
| 4 | 13.9 | 4.5 | 3.5 | 0.3 | 3.2 | 4.6 | 1.2 | 5.6 | 5.3 | 3.6 | 4.6 |
| 5 | 4.1 | 14.5 | 6.7 | 6.8 | 9.2 | 9.9 | 7.8 | 9.3 | 8.5 | 4.9 | 7.2 |
| 6 | 16.6 | 3.6 | 10.0 | 10.3 | 9.2 | 12.5 | 16.5 | 12.4 | 10.9 | 7.4 | 9.6 |
| 7 | 14.5 | 16.4 | 23.1 | 22.9 | 26.5 | 23.8 | 23.3 | 16.3 | 20.5 | 19.3 | 20.1 |
| 8 | 26.7 | 35.5 | 29.4 | 40.0 | 16.8 | 25.4 | 30.0 | 16.8 | 24.7 | 23.0 | 24.1 |
| 9 | 8.8 | 10.0 | 8.0 | 4.2 | 10.9 | 13.1 | 17.4 | 7.8 | 10.6 | 6.5 | 9.1 |
| 10 | 7.4 | 2.7 | 7.0 | 1.6 | 5.0 | 4.1 | 2.4 | 5.9 | 5.0 | 2.7 | 4.2 |
| 合計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 総数（単位：1000） | 29.5 | 10.8 | 97.5 | 31.0 | 40.6 | 889.0 | 360.7 | 325.6 | 3,712.5 | 2,176.1 | 5,888.6 |

資料：Österreichisches Statitisches Zentralamt 1998a

その他の月への分散がみられるようになってきた。またチェコについては4月に，スロバキアについては5月に小さなピークが現れている。オーストリアを目的地とする場合，2月に若干のピークが存在する。これはスキー観光によるものであろう。

### (c) 旅行目的

第3表は1990年，第4表は1996年における目的地別休暇旅行数をその主要目的別にまとめたものである。1990年について検討すると，全体として海水浴・湖水浴が4割を占めることが特徴的である。表に示したオーストリア人の主要旅行先は，ほとんどが海岸を有する。また休暇旅行の多くが夏季に集中するため，海岸・湖岸での活動が主要目的になると考えられる。中央ヨーロッパ東部地域では，ハンガリーがこうした傾向に該当する。その多くはバラトン湖，さらにはオーストリアとハンガリーにまたがるノイジードラー湖Neusiedler Seeを目的地としていると予測される。一方，チェコスロバキアでは，「教養・観光」が卓越している。またポーランドは海岸や多くの湖を有し，海水浴・湖水浴も多いものの，チェコスロバキアと同様に「教養・観光」が最も多い。

1996年になると，全体としては海水浴・湖水浴が減少し，夏季スポーツ，教養・観光および静養・保養が増加している。これと同時に，中央ヨーロッパ東部地域に関する状況は若干の変化をみせる。とくに，教養・観光および静養・保養への集中が顕著になってきた。とくにチェコとポーランドでその傾向が著しい。

### (d) 旅行支出

第5表は1990年および1996年の旅行にかかった費用を目的地別にまとめたものである。1990年については，算入されている休暇旅行の数が少ない。しかし，6年間で旅行に関する支出は，総計および1日もしくは1

第3表　オーストリア人による目的地別休暇旅行の目的別割合（1990年）

| | チェコスロバキア | ハンガリー | ポーランド | ユーゴスラビア | イタリア | ギリシャ | スペイン、ポルトガル | 外国計 | オーストリア | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 海・湖水浴 | 7.5 | 50.6 | 37.0 | 79.2 | 52.7 | 82.3 | 71.9 | 56.0 | 19.9 | 41.0 |
| ハイキング・登山 | 4.6 | 0.6 | 7.4 | 0.6 | 7.1 | 1.9 | 1.7 | 2.9 | 22.2 | 11.0 |
| 夏季スポーツ | 8.1 | 4.4 | 3.7 | 2.6 | 1.7 | 0.8 | 1.4 | 2.3 | 4.7 | 3.3 |
| 冬季スポーツ | 0.6 | 0.3 | 0.0 | 0.1 | 3.2 | 0.1 | 0.4 | 1.1 | 23.7 | 10.5 |
| 療養 | 15.6 | 15.2 | 0.0 | 2.6 | 3.5 | 0.6 | 1.0 | 2.4 | 4.5 | 3.3 |
| 教養・観光 | 57.2 | 12.1 | 51.9 | 4.3 | 19.1 | 8.8 | 16.6 | 25.5 | 6.6 | 17.6 |
| 静養・保養 | 3.5 | 13.2 | 0.0 | 8.5 | 10.4 | 3.0 | 5.6 | 7.6 | 15.9 | 11.1 |
| とくになし | 2.9 | 3.6 | 0.0 | 2.1 | 2.2 | 2.4 | 1.3 | 2.3 | 2.5 | 2.3 |
| 合計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 総数（単位：1000） | 17.1 | 93.5 | 2.7 | 310.8 | 425.7 | 283.7 | 186.3 | 1964.1 | 1399.3 | 3363.4 |

注：1人あたり2旅行まで集計。親戚・知人訪問および所有別荘滞在は除く。
資料：Österreichisches Statitisches Zentralamt 1992

第4表　オーストリア人による目的地別休暇旅行の目的別割合（1996年）

| 目的 | チェコ | スロバキア | ハンガリー | ポーランド | スロベニア | イタリア | ギリシャ | スペイン | 外国計 | オーストリア | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 海・湖水浴 | 0.3 | 27.1 | 29.1 | 3.6 | 30.1 | 54.0 | 77.9 | 64.0 | 43.4 | 10.7 | 31.3 |
| ハイキング・登山 | 0.0 | 1.9 | 1.5 | 0.0 | 6.7 | 4.9 | 0.6 | 1.3 | 2.4 | 16.8 | 7.7 |
| テニス | 8.8 | 2.8 | 1.1 | 1.9 | 1.5 | 0.2 | 0.4 | 0.4 | 0.5 | 0.6 | 0.5 |
| 乗馬 | 0.0 | 0.0 | 2.2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.1 | 0.1 | 0.2 | 0.1 |
| 自転車ツーリング | 1.0 | 0.0 | 3.5 | 0.0 | 1.0 | 0.9 | 0.7 | 1.0 | 0.8 | 2.0 | 1.2 |
| その他の夏季スポーツ | 7.1 | 2.8 | 3.4 | 0.0 | 3.0 | 1.3 | 1.2 | 1.1 | 2.3 | 2.7 | 2.5 |
| アルペンスキー | 0.0 | 1.9 | 0.2 | 1.9 | 0.0 | 2.6 | 0.1 | 0.2 | 1.1 | 24.6 | 9.8 |
| ノルディックスキー | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.1 | 0.0 | 0.0 | 0.1 | 1.2 | 0.5 |
| その他の冬季スポーツ | 0.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.2 | 0.2 | 0.0 | 0.0 | 0.2 | 1.0 | 0.5 |
| 療養 | 8.1 | 5.6 | 20.0 | 0.0 | 24.0 | 2.5 | 0.4 | 0.6 | 1.9 | 4.3 | 2.8 |
| 教養・観光 | 43.4 | 27.1 | 14.3 | 22.3 | 5.7 | 19.1 | 6.2 | 16.7 | 24.4 | 7.5 | 18.2 |
| 静養・保養 | 30.5 | 30.8 | 23.6 | 70.2 | 27.9 | 13.3 | 11.8 | 14.0 | 22.0 | 27.3 | 24.0 |
| とくになし | 0.0 | 0.0 | 1.1 | 0.0 | 0.0 | 1.0 | 0.7 | 0.6 | 0.9 | 1.0 | 0.9 |
| 合計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 総数（単位：1000） | 29.5 | 10.8 | 97.5 | 31.0 | 40.6 | 889.0 | 360.7 | 325.6 | 3,712.5 | 2,176.1 | 5,888.6 |

資料：Österreichisches Statitisches Zentralamt 1998a

第5表　オーストリア人による目的地別休暇旅行の支出額（1990・1996年）

| | 年 | チェコ | スロバキア | ハンガリー | ポーランド | ユーゴスラビアc) | イタリア | ギリシャ | スペインd) | 外国計 | オーストリア | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 旅行あたりの費用a)（シリング） | 1990 | | 4,972 | 3,775 | 3,640 | 5,534 | 6,243 | 10,596 | 12,133 | 9,000 | 4,578 | 7,172 |
| | 1996 | 5,900 | 8,246 | 7,569 | 6,853 | 8,602 | 12,404 | 19,158 | 19,413 | 17,000 | 9,686 | 14,461 |
| 1日あたりの費用b)（シリング） | 1990 | | 474 | 374 | 270 | 402 | 584 | 687 | 844 | 640 | 404 | 552 |
| | 1996 | 560 | 776 | 540 | 294 | 653 | 829 | 1,010 | 1,179 | 913 | 617 | 822 |

a）1990年は旅行者1人あたり2つの旅行のみ，また親戚・知人訪問および自己所有別荘滞在は除く。
b）1990年は1日あたりの費用，1996年は1泊あたりの費用。1990年は旅行者1人あたり2つの旅行のみ，また親戚・知人訪問および自己所有別荘滞在は除く。
c）1996年はスロベニア数値。
d）1990年はポルトガルを含む。
資料：Österreichisches Statistisches Zentralamt 1992；1998a

第6表　オーストリア人による目的地別休暇旅行の予約形態（1996年）

| | チェコ | スロバキア | ハンガリー | ポーランド | スロベニア | イタリア | ギリシャ | スペイン | 外国計 | オーストリア | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 旅行業者（パック旅行） | 33.9 | 32.6 | 12.7 | 15.4 | 24.7 | 21.5 | 70.5 | 73.0 | 43.5 | 6.0 | 29.7 |
| 旅行業者（一部利用） | 5.7 | 10.1 | 3.5 | 0.0 | 13.8 | 11.1 | 18.0 | 16.7 | 15.3 | 3.9 | 11.1 |
| 個人 | 60.4 | 57.3 | 83.8 | 84.6 | 61.5 | 67.4 | 11.5 | 10.3 | 41.2 | 90.1 | 59.1 |
| 合計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 総数（単位：1000） | 24.5 | 8.8 | 88.0 | 13.1 | 30.4 | 857.8 | 350.7 | 307.6 | 3166.3 | 1835.2 | 5001.4 |

注：親戚・知人訪問および所有別荘滞在は除く。
資料：Österreichisches Statitisches Zentralamt 1998a

泊あたりでも大きく増加した。これを国別にみると，いくつかの特徴が存在する。それは，遠隔諸国への旅行の場合，その移動に多大な費用がかかるため，支出は全体平均よりも多くなることである。その一方で，中央ヨーロッパ東部地域への旅行の支出は少なく，オーストリア国内旅行と同程度になっている。とくに1996年については，スロバキアを除き，チェコ，ハンガリーおよびポーランドへの旅行の場合，オーストリア国内への旅行に比べても支出額が少なくなっている。これは，中央ヨーロッパ東部地域においては，1989年以降市場経済の浸透が進んでいるものの，旧西側諸国との物価の差異が依然として存在し，それがもたらした結果と考えられる。しかし，1990年と1996年の1日あたりの支出額を比べると，ポーランド以外の3国ではその増加が顕著である。これは当該諸国において，改革以後にある程度の物価上昇が生じ，その結果が反映されたものといえよう。

#### (e)　旅行業者の利用

第6表は，1996年における休暇旅行の予約形態について示したものである。全体では，個人的に旅行の手配をする場合が59%と最も多い結果となっている。ただし，その割合は1990年の66%に比べて減少した。これはパック旅行を利用せざるを得ない遠隔地域への旅行が増えたためと考えられる。それに対して近隣地域への旅行については，オーストリア国内旅行も含めて個人で手配する場合が非常に多い。中央ヨーロッパ東部地域もこれに該当する。ただしそこでは，パック旅行が増加する傾向にある。それは，とくにチェコとスロバキアで目立ち，1990年にはチェコスロバキア1国で16%であったが，1996年には，それぞれ30%を超えている。

### 2）休暇旅行者の属性

以下では，休暇旅行者の4つの属性をその目的地別に検討していく。ちなみにオーストリア全体で休暇旅行への参加率（休暇旅行を行った人数／推定母集団）は，1990年で45%，1996年では48%に達していた。

#### (a)　居住地

休暇旅行者が居住する州別に休暇旅行への参加率の差異をまず検討しておく。その特徴は，後述するが，各州の就業構造を反映したものとなっていることである。すなわち，最も第三次産業に特化しているウィーンで参加率は最高であり，1996年には63%であった。一方，第一次産業に比較的大きく依存しているか，も

第7表　オーストリア人による目的地別休暇旅行者の居住地別割合（1996年）

| 居住地 | チェコ | スロバキア | ハンガリー | ポーランド | スロベニア | イタリア | ギリシャ | スペイン | 外国計 | オーストリア | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ブルゲンラント | 1.7 | 3.7 | 3.7 | 0.0 | 3.2 | 1.7 | 2.8 | 2.6 | 2.1 | 2.8 | 2.4 |
| ケルンテン | 2.4 | 0.9 | 4.6 | 0.6 | 10.3 | 7.9 | 4.1 | 2.6 | 5.3 | 3.4 | 4.6 |
| ニーダーエスターライヒ | 15.9 | 14.8 | 22.7 | 20.3 | 11.3 | 14.7 | 16.4 | 15.8 | 16.2 | 22.2 | 18.4 |
| オーバーエスターライヒ | 20.0 | 13.9 | 22.1 | 4.2 | 22.4 | 17.2 | 20.1 | 22.7 | 16.5 | 17.2 | 16.8 |
| ザルツブルク | 3.1 | 5.6 | 6.5 | 1.3 | 6.7 | 9.6 | 5.2 | 6.9 | 7.7 | 4.5 | 6.5 |
| シュタイヤーマルク | 14.2 | 2.8 | 15.9 | 8.7 | 20.7 | 12.6 | 14.7 | 12.4 | 12.5 | 9.6 | 11.4 |
| チロル | 7.5 | 1.9 | 4.9 | 0.6 | 5.9 | 13.1 | 7.9 | 6.5 | 8.8 | 4.3 | 7.1 |
| フォアアールベルク | 4.4 | 2.8 | 4.1 | 6.8 | 6.9 | 4.9 | 3.4 | 4.9 | 4.5 | 3.3 | 4.1 |
| ウィーン | 30.8 | 53.7 | 15.6 | 57.6 | 12.6 | 18.2 | 25.4 | 25.5 | 26.4 | 32.7 | 28.7 |
| 合計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 総数（単位：1000） | 29.5 | 10.8 | 97.5 | 31.0 | 40.6 | 889.0 | 360.7 | 325.6 | 3,712.5 | 2,176.1 | 5,888.6 |

資料：Österreichisches Statitisches Zentralamt 1998a

第8表　オーストリア人による居住地別休暇旅行者の目的地別割合（1996年）

| | チェコ | スロバキア | ハンガリー | ポーランド | スロベニア | イタリア | ギリシャ | スペイン | 外国計 | オーストリア | 合計 | 総数（単位：1000） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ブルゲンラント | 0.4 | 0.3 | 2.6 | 0.0 | 0.9 | 10.6 | 7.2 | 6.2 | 56.1 | 43.9 | 100.0 | 139.2 |
| ケルンテン | 0.3 | 0.0 | 1.7 | 0.1 | 1.6 | 25.8 | 5.5 | 3.2 | 72.6 | 27.4 | 100.0 | 270.9 |
| ニーダーエスターライヒ | 0.4 | 0.1 | 2.0 | 0.6 | 0.4 | 12.1 | 5.5 | 4.7 | 55.4 | 44.6 | 100.0 | 1,084.3 |
| オーバーエスターライヒ | 0.6 | 0.2 | 2.2 | 0.1 | 0.9 | 15.5 | 7.3 | 7.5 | 62.1 | 37.9 | 100.0 | 989.1 |
| ザルツブルク | 0.2 | 0.2 | 1.6 | 0.1 | 0.7 | 22.3 | 4.8 | 5.9 | 74.7 | 25.3 | 100.0 | 383.8 |
| シュタイヤーマルク | 0.6 | 0.0 | 2.3 | 0.4 | 1.2 | 16.7 | 7.9 | 6.0 | 68.9 | 31.1 | 100.0 | 673.5 |
| チロル | 0.5 | 0.0 | 1.1 | 0.0 | 0.6 | 27.9 | 6.8 | 5.1 | 77.6 | 22.4 | 100.0 | 419.0 |
| フォアアールベルク | 0.5 | 0.1 | 1.7 | 0.9 | 1.2 | 18.3 | 5.2 | 6.7 | 70.1 | 29.9 | 100.0 | 238.7 |
| ウィーン | 0.5 | 0.3 | 0.9 | 1.1 | 0.3 | 9.6 | 5.4 | 4.9 | 58.0 | 42.0 | 100.0 | 1,690.2 |
| 合計 | 0.5 | 0.2 | 1.7 | 0.5 | 0.7 | 15.1 | 6.1 | 5.5 | 63.0 | 37.0 | 100.0 | 5,888.6 |

資料：Österreichisches Statitisches Zentralamt 1998a

第9表　オーストリア人による目的地別休暇旅行者の年齢階層別割合（1996年）

| 年齢階層 | チェコ | スロバキア | ハンガリー | ポーランド | スロベニア | イタリア | ギリシャ | スペイン | 外国計 | オーストリア | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0-6歳 | 2.0 | 0.9 | 6.2 | 12.3 | 6.9 | 7.6 | 5.8 | 4.5 | 6.3 | 6.9 | 6.5 |
| 7-14 | 7.1 | 6.5 | 9.7 | 14.2 | 8.4 | 10.5 | 8.7 | 7.5 | 8.9 | 14.3 | 10.9 |
| 15-19 | 3.1 | 7.4 | 4.4 | 2.6 | 6.2 | 4.6 | 6.4 | 6.4 | 5.4 | 5.5 | 5.4 |
| 20-29 | 15.9 | 5.6 | 11.6 | 15.2 | 14.0 | 13.0 | 19.9 | 17.5 | 16.1 | 10.5 | 14.0 |
| 30-39 | 16.3 | 13.9 | 15.7 | 20.6 | 16.5 | 20.2 | 21.3 | 19.5 | 19.5 | 17.3 | 18.7 |
| 40-49 | 13.2 | 24.1 | 14.4 | 19.0 | 13.5 | 14.2 | 18.0 | 15.2 | 15.8 | 14.1 | 15.2 |
| 50-59 | 20.7 | 16.7 | 18.3 | 8.1 | 12.1 | 14.2 | 12.1 | 15.4 | 14.0 | 13.5 | 13.9 |
| 60-69 | 11.2 | 6.5 | 10.3 | 5.5 | 8.4 | 9.5 | 5.0 | 7.6 | 8.3 | 8.6 | 8.4 |
| 70- | 10.5 | 18.5 | 9.5 | 2.6 | 14.0 | 6.1 | 2.8 | 6.4 | 5.6 | 9.2 | 6.9 |
| 合計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 総数（単位：1000） | 29.5 | 10.8 | 97.5 | 31.0 | 40.6 | 889.0 | 360.7 | 325.6 | 3,712.5 | 2,176.1 | 5,888.6 |

資料：Österreichisches Statitisches Zentralamt 1998a

しくは鉱工業の不振などで経済的に問題を抱える地域でその値は小さくなる。すなわち，ケルンテン州，ブルゲンラント州およびシュタイヤーマルク州において，参加率は40%以下となる。

第7表と第8表は1996年の目的地別休暇旅行者の居住地についてオーストリア国内の州別に表したものである。目的地別に集計すると（第7表），人口規模の大きな州で大きな割合になる。すなわち，ニーダーエスターライヒ州，オーバーエスターライヒ州，シュタイヤーマルク州およびウィーンの居住者による休暇旅行が，どの目的地についても多い。中央ヨーロッパ東部地域を目的とする場合もこの傾向に当てはまる。

逆に居住地別に集計すると（第8表），地域的な特徴が現れる。すなわち，近隣諸国に関する近接効果である。典型例としては，ブルゲンラント州からハンガリーへ，ケルンテン州から旧ユーゴスラビアへやイタリアへ，チロル州からイタリアへの休暇旅行があげられる。2つの分析ともに，1990年からの大きな変化はほとんどない。

### (b)　年齢階層

休暇旅行全体の参加率についての年齢階層別の差異

はほとんどなく，60歳以上の年齢層でややその値が低くなるのみで，他の年齢層の間に大きな違いはない。

第９表は，1996年における休暇旅行者の年齢構造を目的地別に示したものである。休暇旅行全体の特徴は，１つには若年層で少なく，20から40歳代に多く，それよりも高齢になると再び減少するといった人口の年齢構成を反映したものである。もう１つは，10歳代の後半と高齢者層で休暇旅行への参加率がやや低くなることであり，これは旅行への興味もしくは健康上の理由によるものと考えられる。

中央ヨーロッパ東部地域への旅行者の特色は，国によって大きく異なっている。チェコおよびスロバキアの場合には，14歳以下の年齢層で少なく，50歳以上の年齢層で多い。ハンガリーについては，14歳以下の年齢層および50歳以上の年齢層ともに卓越している。1990年と比べると，1996年についてこの傾向が顕著である。一方ポーランドは，これらの国とは全く異なった特徴を有している。すなわち，14歳以下の年齢層で非常に多く，高齢層は著しく少ない。

(c) 就業形態

オーストリア人全体で，休暇旅行を行うか否かについて就業形態別に検討すると，非常に大きな差異が存在する。一般にはサラリーマン・公務員といったホワイトカラーおよび自営業者でその参加率が高く，前者の参加率は1996年では60%以上に達する。一方，労働者の場合には43%，年金生活者は36%，農林業従事者では20%と休暇旅行者の割合が小さくなる。

第10表で1996年について目的地別に検討していこう。ここでは，休暇旅行全体の平均と中央ヨーロッパ東部諸国を比較してみていく。この地域への旅行全般にいえることは，労働者および年金生活者によるところが多いことである。国ごとの差異に注目すると，ポーランドについては，労働者および児童によるものが非常に多い。児童については前述の(b)の分析結果と一致している。またチェコの場合には年金生活者の割合も多いものの，サラリーマンの値が最も大きく，他の３カ国と異なる特徴である。こうした差異はあるものの一般には，労働者を中心とした低所得者層による旅行が多いといえよう。年金生活者の場合には，かつてのオー

第10表　オーストリア人による目的地別休暇旅行者の就業形態別割合（1996年）

| 就業形態 | チェコ | スロバキア | ハンガリー | ポーランド | スロベニア | イタリア | ギリシャ | スペイン | 外国計 | オーストリア | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 農林業 | 0.7 | 0.0 | 2.3 | 0.0 | 0.0 | 0.7 | 0.6 | 0.9 | 0.7 | 1.1 | 0.9 |
| その他の自営業 | 5.8 | 3.7 | 2.3 | 2.9 | 3.4 | 4.9 | 5.3 | 5.7 | 4.7 | 3.9 | 4.4 |
| 労働者 | 11.6 | 20.2 | 20.5 | 27.7 | 14.5 | 10.7 | 13.2 | 14.2 | 15.2 | 9.6 | 13.1 |
| サラリーマン | 26.9 | 20.2 | 15.4 | 18.6 | 20.4 | 24.8 | 30.9 | 26.8 | 24.8 | 21.8 | 23.7 |
| 公務員 | 7.8 | 9.2 | 4.3 | 6.8 | 6.4 | 8.2 | 10.3 | 9.4 | 8.0 | 8.0 | 8.0 |
| 教員 | 0.7 | 0.9 | 1.5 | 0.0 | 1.2 | 0.8 | 0.7 | 1.0 | 0.9 | 0.8 | 0.9 |
| 年金生活者 | 23.8 | 26.6 | 24.0 | 5.5 | 20.9 | 16.9 | 9.6 | 16.1 | 15.8 | 19.4 | 17.1 |
| 主婦（50歳未満） | 3.4 | 0.0 | 4.8 | 5.5 | 4.4 | 4.6 | 4.0 | 3.3 | 4.2 | 4.1 | 4.1 |
| 主婦（50歳以上） | 4.4 | 0.9 | 4.8 | 1.3 | 6.9 | 4.2 | 2.1 | 3.3 | 3.3 | 3.3 | 3.3 |
| 大学生・高校生 | 12.9 | 16.5 | 13.5 | 19.6 | 14.7 | 16.9 | 16.9 | 14.4 | 16.0 | 21.5 | 18.0 |
| 中学生以下の児童 | 2.0 | 0.9 | 6.3 | 12.2 | 6.9 | 7.1 | 5.4 | 4.3 | 5.8 | 6.3 | 6.0 |
| その他 | 0.0 | 0.9 | 0.3 | 0.0 | 0.2 | 0.3 | 0.7 | 0.6 | 0.6 | 0.4 | 0.5 |
| 合計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 総数（単位：1000） | 29.5 | 10.8 | 97.5 | 31.0 | 40.6 | 889.0 | 360.7 | 325.6 | 3,712.5 | 2,176.1 | 5,888.6 |

資料：Österreichisches Statitisches Zentralamt 1998a

第11表　オーストリア人による目的地別休暇旅行者の最高学歴別割合（1996年）

| 最高学歴の種類 | チェコ | スロバキア | ハンガリー | ポーランド | スロベニア | イタリア | ギリシャ | スペイン | 外国計 | オーストリア | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 義務教育未修了 | 0.7 | 0.0 | 0.6 | 0.0 | 2.6 | 0.5 | 0.6 | 0.3 | 1.0 | 0.7 | 0.9 |
| 義務教育 | 17.5 | 20.6 | 32.7 | 17.1 | 30.5 | 20.5 | 17.3 | 19.8 | 22.7 | 22.7 | 22.7 |
| 職業学校 | 36.6 | 27.8 | 41.2 | 18.4 | 33.1 | 34.8 | 33.7 | 37.3 | 33.1 | 31.5 | 32.5 |
| 職業教育中学校（職業学校を除く） | 13.4 | 19.6 | 10.3 | 10.5 | 7.6 | 13.0 | 13.1 | 12.5 | 12.0 | 13.4 | 12.5 |
| 普通高校 | 9.7 | 11.3 | 3.8 | 24.1 | 8.7 | 9.4 | 11.2 | 10.0 | 9.4 | 10.0 | 9.6 |
| 職業高校 | 6.3 | 10.3 | 3.2 | 8.8 | 4.9 | 7.1 | 8.7 | 7.5 | 7.3 | 6.5 | 7.0 |
| 職業高校（上級） | 3.7 | 0.0 | 1.2 | 3.5 | 3.2 | 3.1 | 3.8 | 2.9 | 3.1 | 3.2 | 3.2 |
| 大学に類似した学校 | 1.1 | 2.1 | 2.1 | 7.9 | 3.8 | 2.7 | 3.4 | 2.8 | 2.6 | 2.6 | 2.6 |
| 大学 | 10.8 | 8.2 | 4.9 | 9.6 | 5.5 | 9.0 | 8.3 | 6.9 | 8.9 | 9.4 | 9.1 |
| 合計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 総数（単位：1000） | 26.8 | 9.7 | 82.2 | 22.8 | 34.4 | 727.2 | 308.4 | 286.4 | 3,147.7 | 1,715.1 | 4,862.8 |

注：15歳以上の旅行者のみ。
資料：Österreichisches Statitisches Zentralamt 1998a

第12表　オーストリア人による目的地別短期旅行の居住地別割合（1996年）

| 居住地 | チェコ | スロバキア | ハンガリー | ポーランド | スロベニア | イタリア | ドイツ | 外国計 | オーストリア | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ブルゲンラント | 2.2 | 5.8 | 5.0 | 0.0 | 3.3 | 0.9 | 1.3 | 2.0 | 2.4 | 2.3 |
| ケルンテン | 0.7 | 0.0 | 4.0 | 3.2 | 25.1 | 11.6 | 9.3 | 9.7 | 8.5 | 8.9 |
| ニーダーエスターライヒ | 17.5 | 27.5 | 33.7 | 25.8 | 5.7 | 11.9 | 12.5 | 15.2 | 18.0 | 16.9 |
| オーバーエスターライヒ | 18.0 | 27.5 | 16.1 | 11.3 | 13.3 | 15.4 | 23.5 | 17.6 | 21.4 | 19.9 |
| ザルツブルク | 8.8 | 5.0 | 3.1 | 6.5 | 4.3 | 8.1 | 8.0 | 7.7 | 5.8 | 6.5 |
| シュタイヤーマルク | 7.7 | 1.7 | 21.0 | 0.0 | 35.1 | 18.2 | 7.8 | 14.6 | 15.1 | 14.9 |
| チロル | 3.7 | 1.7 | 2.6 | 0.0 | 0.5 | 16.0 | 8.4 | 9.3 | 5.3 | 6.9 |
| フォアアールベルク | 1.7 | 0.8 | 0.5 | 6.5 | 0.5 | 6.7 | 8.8 | 6.0 | 3.4 | 4.4 |
| ウィーン | 39.7 | 30.0 | 14.0 | 46.8 | 12.3 | 11.2 | 20.4 | 17.8 | 20.1 | 19.2 |
| 合計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 総数（単位：1000） | 59.9 | 12.1 | 87.1 | 6.2 | 21.0 | 349.6 | 133.8 | 950.6 | 1,539.7 | 2,490.3 |

注：1泊から3泊の旅行のみ。
資料：Österreichisches Statitisches Zentralamt 1998a

ストリア＝ハンガリー帝国の名残りもある程度作用していると考えられる。

(d)　最高学歴

休暇旅行全体において最高学歴のランクが高いほど，休暇旅行への参加率は高くなる。義務教育のみまたはそれも未修了の場合には，参加率が35％程度であるのに対し，多種類ある高校の場合には65％前後，さらに大学については72％に達する。

第11表は，休暇旅行者の最高学歴を目的地別に示したものである。チェコおよびスロバキアの場合には，休暇旅行全体の平均から大きな変化はない。しかし，ハンガリーおよびポーランドについては特異な傾向を示している。すなわち，ハンガリーへの旅行者については，義務教育および職業学校のものが卓越する。それに対してポーランドでは，高校以上の高い学歴の旅行者が多くなっている。

3）短期旅行

本研究でいう短期旅行は，1泊から3泊までの旅行のことである。その旅行総数は1990年には約150万であったが，1996年には約250万へと増加した。ただしこれらの数値には親戚・知人宅や自己所有別荘での滞在が除かれている。それらを含めると，1990年には600万，1996年には750万の短期旅行が存在したと推定されている。ただしより詳細な集計結果は，前者の少ない数字についてのみ存在する。

第12表は1996年の目的地別短期旅行者の居住地についてオーストリア国内の州別に表したものである。まず短期旅行の行き先に注目すると，短期であるゆえ，オーストリア国内および近隣諸国への旅行が多くなっている。国内が最も多く6割以上を占める。それにイタリア，ドイツ，ハンガリーおよびチェコが続いている。ただしハンガリーおよびチェコへの短期旅行の占める割合は，それぞれ3.5％と2.4％に過ぎない。またポーランドについては，その地理的な位置関係のためか旅行者が少ない。ハンガリーについては，1980年頃から国境開放とともに比較的多くの短期旅行者があったと考えられるが，チェコの場合には1989年以降，短期旅行の数は急激に増加したと予測される。しかし，1990年と1996年の短期旅行者数を比べると，ハンガリー，チェコおよびスロバキアへの旅行者数に大きな増加はみられず，ハンガリーの場合には逆に減少している。

出発地の州別に検討すると，長期にわたる休暇旅行の場合と同様に，近隣効果が認められる。チェコの場合にはニーダーエスターライヒ州，オーバーエスターライヒ州およびウィーンからの旅行者が卓越する。スロバキアの場合には，上記3つの州にブルゲンラント州が加わっている。またブルゲンラント州やシュタイヤーマルク州からハンガリーへの短期旅行も特徴的である。

4）日帰り観光

(a)　概要

1993年9月から1994年8月にかけてなされた日帰り観光旅行の総数は，約5,750万と推計されている。日帰り旅行者の数は約270万人で，15歳以上の人口の約半数である。日帰り旅行の時期については，季節別の旅行者数の数値がある。これによると春季に若干多いものの，各季節とも200万人前後の旅行者がおり，大きな季節的変動はそれほどないと考えられる。

5000万以上に達する日帰り旅行全体についてのさまざまな指標に関する詳細な集計結果は存在せず，調査期間内の最後になされた1旅行についてのみいくつか

第13表　オーストリア人による「最後に行った日帰り観光」の目的別割合（1993・1994年）

| 目的 | チェコ | スロバキア | ハンガリー | スロベニア | イタリア | スイス | ドイツ | 外国計 | オーストリア | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ハイキング・登山 | 1.4 | 0.0 | 1.1 | 6.1 | 11.6 | 9.0 | 4.3 | 4.3 | 23.4 | 21.1 |
| 海・湖水浴 | 1.6 | 0.0 | 17.9 | 16.0 | 6.5 | 7.5 | 4.6 | 7.3 | 14.3 | 13.5 |
| その他の夏季スポーツ | 5.4 | 0.0 | 1.8 | 3.1 | 2.1 | 1.5 | 2.4 | 3.0 | 5.5 | 5.2 |
| アルペンスキー | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.1 | 1.7 | 1.5 |
| ノルディックスキー | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.8 | 0.0 | 0.0 | 0.2 | 0.2 |
| 親戚・知人訪問 | 5.2 | 8.5 | 10.7 | 6.1 | 10.4 | 15.0 | 12.7 | 10.4 | 16.9 | 16.1 |
| 所有別荘訪問 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.1 | 0.2 | 1.0 | 0.9 |
| 展覧会・音楽会・博物館 | 4.8 | 15.9 | 0.7 | 3.1 | 3.3 | 10.5 | 9.3 | 5.8 | 6.1 | 6.0 |
| スポーツ大会 | 1.0 | 4.9 | 0.7 | 2.3 | 0.0 | 1.5 | 2.3 | 1.4 | 1.6 | 1.5 |
| その他の催し | 1.6 | 2.4 | 2.2 | 2.3 | 3.6 | 4.5 | 8.5 | 4.3 | 4.2 | 4.2 |
| 国立公園・自然公園 | 1.8 | 2.4 | 1.3 | 3.1 | 2.7 | 8.3 | 8.5 | 4.4 | 4.6 | 4.6 |
| 城・教会・宮殿 | 43.5 | 37.8 | 12.7 | 10.7 | 17.5 | 14.3 | 19.1 | 22.5 | 9.0 | 10.7 |
| 飲食店 | 2.4 | 2.4 | 5.8 | 9.9 | 4.7 | 2.3 | 2.8 | 3.9 | 2.1 | 2.3 |
| 買い物 | 19.2 | 12.2 | 34.2 | 21.4 | 22.0 | 16.5 | 15.3 | 20.8 | 2.4 | 4.6 |
| ドライブ | 0.8 | 2.4 | 0.7 | 5.3 | 7.4 | 3.0 | 1.6 | 2.4 | 1.6 | 1.7 |
| とくになし | 11.2 | 11.0 | 10.3 | 10.7 | 8.3 | 5.3 | 8.3 | 9.2 | 5.4 | 5.9 |
| 合計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 総数（単位：1000） | 49.9 | 8.2 | 44.8 | 13.1 | 33.7 | 13.3 | 73.9 | 241.4 | 1,760.4 | 2,001.8 |

注：1993年９月から1994年８月の期間の最後になされた日帰り観光のみ。
資料：Österreichisches Statitisches Zentralamt 1998b

第14表　オーストリア人による「最後に行った日帰り観光」における飲食店訪問（1993・1994年）

| | チェコ | スロバキア | ハンガリー | スロベニア | イタリア | スイス | ドイツ | 外国計 | オーストリア | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 総数（単位：1000） | 49.8 | 8.2 | 44.8 | 13.1 | 33.4 | 13.2 | 74.4 | 241.4 | 1,760.4 | 2,001.8 |
| 飲食店の訪問（同） | 45.9 | 7.5 | 42.0 | 11.6 | 30.1 | 10.4 | 61.7 | 212.4 | 1,289.0 | 1,501.4 |
| 割合（%） | 92.2 | 91.5 | 93.8 | 88.5 | 90.1 | 78.8 | 82.9 | 88.0 | 73.2 | 75.0 |

注：1993年９月から1994年８月の期間の最後になされた日帰り観光のみ。
資料：Österreichisches Statitisches Zentralamt 1998b

の指標が目的地別にまとめられている。ただし，調査期間が９月に始まり８月で終わるため，「最後になされた日帰り旅行」は８月に半分程度集中している。以下ではそれぞれについて検討していく。

まず，目的地ごとの概要について記述する。総サンプル数は約200万旅行に達し，その内の88%にあたる176万はオーストリア国内を目的地としている。外国では，ドイツを目的地とするものが最も多く，全体の3.6%を占める。これにチェコ，ハンガリー，イタリアの順で続いている。

### (b)　訪問目的

第13表は最後に行った日帰り旅行の目的を目的地別に集計したものである。全体では，ハイキング・登山，親戚・知人訪問，海・湖水浴および城・教会・宮殿訪問が多くを占めている。しかし，これはオーストリアを目的地とした場合の傾向をかなり反映したものとなっている。外国の場合には，それぞれの国の性格によって目的が大きく異なっている。チェコとスロバキアでは，城・教会・宮殿訪問が最も多い。またスロバキアの場合には展覧会・音楽会・博物館訪問もやや多い。一方，ハンガリーの場合には海・湖水浴が卓越する傾向が認められる。これは，ノイジードラー湖またはバラトン湖が目的なのであろう。またこれら３カ国に共通する傾向として，買い物を目的とするものが多いことがあげられる。とくにハンガリーでこの傾向が著しい。

### (c)　飲食店への立ち寄り

飲食は，先に分析した日帰り観光の主要目的としてはそれほど重要性が高くない。しかし，多くの日帰り観光客はその旅行中に飲食を行う。第14表は日帰り観光における飲食店の訪問について目的地別に示したものである。それによると，全体では訪問率は75%であるものの，チェコ，スロバキアおよびハンガリーを目的地とした場合には，いずれも90%を超えている。

## 4．中央ヨーロッパ東部地域への旅行の特徴
## －むすびにかえて－

本研究では，東欧改革に伴うオーストリア人の旅行行動の変化を明らかにすることに分析を進めてきた。すなわち，旅行先としての中央ヨーロッパ東部地域の位置づけ，および中央ヨーロッパ東部地域を目的地とした旅行の性格を明らかにしてきた。その結果をまとめるともに若干の考察を以下に記述する。

オーストリア人による休暇旅行の目的地の変化を分析したところ，中央ヨーロッパ東部地域を目的地とするものは改革直後に増加した。すなわち，国境開放によって新たな旅行目的地としての選択肢の中に入ったと考えられる。しかし，その後は旅行者数が減少傾向にある。こうした傾向は旧西ドイツ住民による休暇旅行にも同様にみられる。すなわち，1990年には東ヨーロッパ全体[2]への休暇旅行は340万に達し，それは全体の休暇旅行の8.3%を占めていた（Studienkreis für Tourismus 1991)。しかし1994年になると，それぞれ200万および3.7%へと減少した（Forschungsgemeinshaft Urlaub und Reisen 1996）[3]。このように改革直後は，それまで行きづらかった旧東欧諸国への旅行が急激に増加した。それまで国境が閉鎖されていたという物理的な障害がなくなったこと，さらには未知もしくは数十年間訪れることができなかった地域への興味の高まりが，短期間に非常に多くの観光客を送り出した要因になったのであろう。しかしその後は，休暇旅行の目的地としてはそれほど多く選択されていない。これはチェコについても述べたが（呉羽1999)，観光資源の性格および観光基盤の未整備によるところが大きいと考えられる。すなわち，休暇旅行の大半は夏季に集中し，その際の主たる活動は海岸・湖岸でのものになる。こうした観光資源が東ヨーロッパには少なく，また存在したとしても宿泊施設などの整備が進んでいないところが多い。すなわち，休暇旅行の目的地としては，それほど良い条件を備えていないことになる。その結果，休暇旅行数は1990年代に入り減少したと考えられる。

次に，オーストリア人による中央ヨーロッパ東部地域への休暇旅行の特色であるが，その数は非常に少なく，休暇旅行全体の5%に満たない。その時期は夏季が中心である。旅行目的は他の目的地の場合と大きく異なり，教養・観光および保養・静養が多かった。前者では博物館や宮殿などの観光が主体になっているものと考えられる。当該地域への休暇旅行についての最大の特色は費用が安いことであろう。これは，改革以降も，依然として存在するかつての西側諸国との市場の差異がもたらしたものであろう。しかし1日あたりの支出額は，1990年から1996年に増加がみられ，改革以後の物価上昇の影響も存在する。休暇旅行の予約は個人予約が中心であるが，パック旅行の利用も1990年から1996年にかけて増加した。

中央ヨーロッパ東部地域への休暇旅行者の属性は次のようにまとめられる。居住地では，人口の多い州から多くの旅行者がみられたが，居住地を基にした割合では，隣接する州から当該地域への旅行が卓越している。すなわち，オーストリア東部の諸州からハンガリーやスロバキアへ，さらにはチェコへの多くの休暇旅行が認められた。旅行者の年齢では，国による差異は存在するものの，概して高齢者に多かった。また就業構造では，これに連動して年金所得者が多くなっていた。さらに労働者を中心とした低所得者層による休暇旅行も目立った。多くの例外はあると考えられるが，前に述べた費用が安いといった条件によって，低所得者層の休暇旅行が多い状況といえよう。

短期旅行については，得られる指標が少なかったが，全体としてはオーストリア国内が目的地となっていた。ハンガリーおよびチェコへの短期旅行の占める割合は，それぞれ3%前後に過ぎなかった。出発地を州別に検討すると，休暇旅行の場合と同様に，近隣効果が認められ，近接する州からハンガリーやチェコを訪問する場合が顕著であった。

日帰り観光も短期旅行と同様に，その目的地は国内でほとんどを占めていた。ハンガリー，スロバキアおよびチェコを訪れる日帰り旅行の場合，その目的として買い物や文化施設の訪問が目立った特徴であった。さらに飲食店に立ち寄るケースが非常に多い傾向が明らかになった。ただしほとんどの分析結果は，「最後になされた日帰り観光」を基になされているため，どの程度の日帰り観光が中央ヨーロッパ東部地域を目的地としてなされているのかは把握できなかった。

オーストリア人による中央ヨーロッパ東部地域への旅行全体についてまとめると，休暇旅行・短期旅行ともにわずかな割合でしかなく，当該地域での費用の安さから低所得者層によるものが卓越し，また当該地域にアクセスのしやすい諸州から旅行がなされている。

しかし，量的には把握できなかったものの，日帰り旅行が休暇・短期旅行に比べ非常に多いと考えられる。

［付記］本稿は，平成８・９・10年度文部省科学研究費補助金（国際学術研究・学術調査）による研究「中央ヨーロッパにおける市場経済化の進展と地域構造の変化 －旧東ドイツ・ポーランド・チェコ・スロヴァキア・ハンガリーの事例－（代表者：小林浩二；課題番号：08041053)」の成果の一部である。貴重な助言をいただいたオーストリア東・南東ヨーロッパ研究所の P. Jordan 博士に深く感謝いたします。

## 注

1）ミクロセンサスとは，多様なテーマについて１年に４回なされる無作為抽出による住民調査である。
2）旧ソ連など，旧共産圏諸国を全て含んでいる。
3）1990年と1994年でデータの調査団体が異なる。しかし，Studienkreis für Tourismus が1993年に閉鎖され，その後同じ方法で Forschungsgemeinshaft Urlaub und Reisen が調査を引き継いでいるため，データの経年比較が可能である。

## 文 献

呉羽正昭　1997a. 中央ヨーロッパ東部における観光の変化. 日本地理学会発表要旨集　**51**：234-235.

呉羽正昭　1997b. 中央ヨーロッパ東部地域住民の観光パターンの変化に関する一考察. 愛媛の地理　**13**：25-33.

呉羽正昭　1997c. オーストリアにおける中欧東部地域からの宿泊客の滞在パターンとその変化. 愛媛大学法文学部論集・人文学科編　**3**：123-139.

呉羽正昭　1998. ハンガリーにおける観光客と観光地域の変化―観光統計を用いた分析―. 愛媛大学法文学部論集　人文学科編　**5**：121-142.

呉羽正昭　1999. チェコにおける観光客とその地域的分布の変化. 小林浩二編『中央ヨーロッパにおける市場経済化の進展と地域構造の変化』（平成10年度科研費研究成果報告書）370-382.

Forschungsgemeinshaft Urlaub und Reisen 1996. *Urlaub＋Reisen 95*. Hamburg.

Österreichisches Statitisches Zentralamt 1992. *Reisegewohnheiten der Österreicher im Jahre 1990*. Wien.

Österreichisches Statitisches Zentralamt 1998a. *Reisegewohnheiten der Österreicher im Jahre 1996*. Wien.

Österreichisches Statitisches Zentralamt 1998b. *Tagesausflüge und Kuraufenthalt der Österreicher 1993／94*. Wien.

Studienkreis für Tourismus 1991. *Urlaubreisen 1990*. Starnberg.